久宝教会主日礼拝説教　　５／２４／２０

ヨハネによる福音書７：３７－３９

「立ち上がって大声で」

大阪でも非常事態宣言が解除され、社会は少しずつ元に戻って来ている様子を見せ始めています。コロナ以前のあの慌ただしい社会に戻ることが果たして適切なのかどうかはともかくとして、この期に及んでもまだ届かないアベノマスク――もう今更いりませんけどね――、そして国民一律 10 万円という特別定額給付金についても、私のところにはまだ申請書すら届いておりません。このテンポのあまりの遅さに、腹立たしい思いを通り越して、だめだこりゃ、と個人的にあきれ返っている今日この頃ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

その特別定額給付金をめぐっては、2016 年に鳴り物入りで導入したマイナンバーカードがまったく役に立たないことが分かったうえ、政府がもたもたしている間に給付金を装った不審な電話やメールが確認され始めているのだそうです。詐欺師の方がよっぽど対応が早い。なお、この特殊詐欺とよばれるものは、警察庁のまとめによると、被害額がもう 8 年連続で 300 億円を超えているとのことです。そんな特殊詐欺、誰が考えたんでしょうかねえ、そもそもの始まりは 1990 年代の台湾あたりだったようで、それが日本へ伝わってきたのがどうやら 1999 年、初めは高齢者の家などに電話を掛け「おれ(わたし)だけど」と言って、電話に出た人に自分の息子や孫だと思わせて「交通事故を起こしてしまって、いますぐお金が必要なんだ」などと話し、指定した金融機関の口座に現金を振り込ませるという「オレオレ詐欺」と呼ばれておったわけです。

オレオレ詐欺なんて、何でみんなそんなしょーもない手口に引っかかるんだろうと当時は私も思っていたものですが、よく考えたら私も、高校生の頃に、付き合っていたガールフレンドの家に電話をして「あーおれおれ」と言っていたら、電話の向こうの彼女が「どちらさまですか？」などと聞き返すので、「ちょっと彼氏の声がわからんなんて水くさいなー」と言ったところ「あーお姉ちゃんですね、おねーちゃーん水くさい人から電話ー」と、じつは彼女の妹が取り次いでいたというホントに恐ろしい話があったことを思い出しました。

「オレオレ詐欺」というのは、家族だという思い込みを利用しているだけなので家族でも何でもないのですが、父親と息子とか兄と弟、姉と妹など、家族の声って何で似ているんでしょう。非常に紛らわしい。しかしまあそれはなぜかというと、子どもは親の話し方や声の出し方を真似することによって自分の声を作っていくからなんだそうです。だから、将来子どもがいい声で話すようになるかどうかは、親の話し方にかかっているというわけです。そして思春期を迎えて、ある程度子どもの自我が強くなってくると、今度は好きな俳優や歌手の話し方を真似てみたりすることで、そのように声が変わることもあるんだそうです。私も中学校の頃にデーモン小暮の声をやたらと真似していたことを思い出します。

もう一つ違う話、「カクテルパーティー効果」というのはご存知でしょうか。例えば、カ

クテルパーティーのようながやがやしている中にいても、自分の名前が聞こえるとピクッと反応してしまうとか、電車の中でも遠くのグループの会話が耳に入って気になるとか。それを「カクテルパーティー効果」と呼ぶんだそうです。自分の名前だけでなく、自分の親・兄弟・子どもや、自分の好きな人の声とか、脳に深くインプットされているものにも、私たちの耳は鋭く反応するようにできているのだそうです。そのような音や声を聞き分ける耳というのは、もちろん耳の不自由な方の存在を忘れてはいけないんですが、基本的に私たちみんなに与えられているもので、その力は、５ヶ月くらいの胎児でさえももう既に備えられているといいます。井深大（いぶかまさる）という方の著書によりますと、母親の子宮の中は、胃や腸のゴロゴロという音で意外と騒々しいらしいのですが、その中で胎児は四六時中耳を澄ませて、内外の音を一生懸命に聞き分けようとしているのだそうです。そして、胎児がいちばんよく耳にし、また他の声とはっきり聞き分けることができるのは、もちろん母親の声で、胎児はお腹の中で他の誰よりもお母さんの声を熱心に聞こうとするのだそうです。

前置きが長くなりましたが、本日の聖書はヨハネによる福音書７：３７－３９です。冒頭に記されている祭りとは「仮庵祭」といって、もともとはオリーブ、ぶどう、いちじくなどの果物の収穫を感謝した秋の収穫祭であったものが、イスラエルのエジプト脱出を記念し、出エジプトの民が荒野を放浪している間、幕屋で生活したことを偲ぶものへと発展した祭りでありました。実際に木の枝を用いて庭や屋上に仮の小屋を建て、その中で一週間を過ごし祭りを祝うこともあったといいます。一週間が過ぎて８日目には、祭りのクライマックスたる集会が守られ、会堂における礼拝と共に１頭の雄牛、１頭の雄羊、７匹の子羊がほふられました。本日の箇所で言われている「祭りの終わりの大事な日」とは、この日のことであったと思われます。何しろ、イスラエル人の３大祭りのひとつであり、しかもそのクライマックスということですから、その活気に満ちた様子やにぎわい方は相当なものであったでしょう。

そんな祭の最終日、たくさんの人々でにぎわっている中、イエスは立ったまま（立ち上がって）大声で言われた、とあります。「渇いている人は誰でも、私のところに来て飲みなさい。私を信じる者は、聖書が語ったとおり、その人の内から生ける水が川となって流れ出るようになる。」祭でにぎわっている人の声や物音に負けないように大声でしゃべった、ということでしょうか。新約聖書の中にはイエスが、または誰かが大声でしゃべったという箇所がいくつもありますが、本日の箇所と状況が似ている箇所、例えばルカによる福音書９：３７－３９をお読みいたします。「翌日、一同が山から下りると、大勢の群衆がイエスを出迎えた。その時、１人の男が群衆の中から大声で言った。『先生、どうか私の子を見てやってください。１人息子です。悪霊が取り付くと、この子は突然叫びだします。悪霊はこの子にけいれんを起こさせて泡を吹かせ、さんざん苦しめて、なかなか離れません。この霊を追い出して下さるようにお弟子さんたちに頼みましたが、できませんでした。』」イエスが悪霊に取り付かれた子どもをいやすという話なんですが、ここで群衆がわいわい

とイエスを取り囲んでいる時に、悪霊に取り付かれた子を持つ男が群衆の中から大声でイエスに訴えたわけです。先生どうか私の子を見てやって下さいと。弟子たちでもこの子をいやすことができず、もうイエス様しか望みはない、イエス様どうか何とかして下さいと、この男は本当に切実な思いをもって叫んだことでしょう。そしてこの男と同様、今日の箇所におけるイエスも、何か大声で叫ばずにはおれない何かがあったのかも知れません。イエスは大声で、誰に、何を訴え、あるいは呼びかけたかったのでしょうか。

イエスは「渇いている人は誰でも、私のところへ来て飲みなさい」と言われました。渇いている人とはどんな人か。ヨハネによる福音書４章には、イエスとサマリアの女とのやり取りが記されています。旅に疲れたイエスが、サマリアのヤコブの井戸で休んでいると、サマリア人のある女性が水を汲みに来たので、イエスが水を飲ませて下さいと頼んだことで２人の会話が始まります。その中でイエスはこう言われます。「この水を飲む者は誰でもまた渇く。しかし、私が与える水を飲む者は決して渇かない。私が与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」イエスが与える水は生きた水であり、それを飲んだ者はもう決して渇くことがない。つまり、ここでいう渇きとは、肉体的なものにあらず、心の渇き、あるいは魂の渇きを意味するものであるわけです。

では、心の渇き、魂の渇きとはどのようなものでしょうか。昔、ＮＨＫで「真剣１０代しゃべり場」という番組がありましたが、そこでは今時の１０代の若者たちが毎回いろんなテーマを設定して熱く議論を交わしておりました。彼らは必ずしも裕福ではないかもしれないけれども物質的に恵まれていないわけでもない、ただ、これから自分はどう生きたらいいのだろうか、自分のこんな考えは本当に正しいのだろうか、いろんな人と出会って、意見をぶつけ合って、自分を高めたいといったふうに、心が、魂が飢え渇いている若者たちでした。そしてテレビに出ている彼らはたまたまそのような場に恵まれただけで、自分の心や魂を満たす何かを求めていながらも、受け止めてもらえる場を持たないためにどうしていいか分からず周りに流されている人々は、今でも、１０代の若者たちに限らず、この世にあって本当にたくさんいるに違いないんです。自分はどう生きたらいいのか、自分はこれでいいのか、何が正しい答なのかなんて悩み、１０代どころか４０代終わろうかというこの私だって今でもずっと抱えているくらいですから、私たちに簡単に見えないだけで本当はもっともっといるはずなんです。そして祭の喧騒の中で立ち上がり大声で言ったイエスの言葉は、イエスを信じてついてくるならば、いつか必ず生きた水によってあふれるほどに満たされ、みずみずしく生き返り、生き生きと力づけられることになるのだという呼びかけ、人々と共に祭を楽しんでいるように見えても、魂においては満たされない思い、飢え渇きをおぼえているひとりひとりに対する呼びかけであったのではないでしょうか。そしてイエスが祭の最中に大声で呼びかけられたのと同じように、様々な誘惑や妨害の多い今の私たちの世にあっても、イエスはひそかに飢え渇きをおぼえて悶々としている私たちに大声で呼びかけてくれている、呼びかけ続けてくれているはずなんです。

ただ残念なことに、私たちはそのイエスの呼び掛けの声、イエスの招きに気づくことが

なかなかできないでいます。しかし私たちにはカクテルパーティー効果があります。雑音の中でも母親の声を聞き分ける胎児と同じく、イエスの声を聞き分ける耳が与えられています。胎児にとっての母親の声と同様、私たちは見た目に華やかで誘惑の多いこの世にあろうとも、イエスの呼びかけを聞き分けることができるはずです。偽りの「オレオレ！」という声に惑わされず、真のイエス様の呼びかけの声に集中したいと思います。